



2021年3月期 第2四半期決算短信(日本基準)(連結)

2020年11月13日

上場会社名 関東電化工業株式会社
 コード番号 4047 URL <https://www.kantodenka.co.jp/>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 長谷川 淳一

問合せ先責任者 (役職名) 法務・総務部長 (氏名) 二見 浩司

TEL 03-4236-8801

四半期報告書提出予定日 2020年11月13日

配当支払開始予定日

2020年12月8日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 機関投資家・アナリスト向け

(百万円未満切捨て)

1. 2021年3月期第2四半期の連結業績(2020年4月1日～2020年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期第2四半期	24,398	9.8	1,847	54.2	1,723	57.2	821	67.6
2020年3月期第2四半期	27,043	2.4	4,031	18.8	4,023	23.4	2,537	30.5

(注) 包括利益 2021年3月期第2四半期 1,457百万円 (34.6%) 2020年3月期第2四半期 2,229百万円 (23.5%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年3月期第2四半期	14.29	
2020年3月期第2四半期	44.12	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2021年3月期第2四半期	81,277	48,209	57.7	816.97
2020年3月期	84,061	47,214	54.8	800.26

(参考) 自己資本 2021年3月期第2四半期 46,933百万円 2020年3月期 46,033百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年3月期		7.00		7.00	14.00
2021年3月期		7.00			
2021年3月期(予想)				7.00	14.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 有

3. 2021年3月期の連結業績予想(2020年4月1日～2021年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	50,000	6.9	3,500	54.7	3,200	59.2	2,000	60.2	34.81

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 有
新規 1 社 (社名) 宣城科地克科技有限公司、除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2021年3月期2Q	57,546,050 株	2020年3月期	57,546,050 株
期末自己株式数	2021年3月期2Q	98,473 株	2020年3月期	22,573 株
期中平均株式数(四半期累計)	2021年3月期2Q	57,506,472 株	2020年3月期2Q	57,523,519 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。なお、業績予想に関する事項は、【添付資料】3ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(決算補足説明資料の入手方法)

当社は、2020年11月24日(火)に機関投資家・証券アナリスト向けの決算説明会を開催する予定です。決算説明会にて使用する決算補足説明資料は、説明会開催後、当社ホームページに掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報.....	2
(1) 経営成績に関する説明.....	2
(2) 財政状態に関する説明.....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明.....	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記.....	4
(1) 四半期連結貸借対照表.....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書.....	6
(四半期連結損益計算書).....	6
(四半期連結包括利益計算書).....	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項.....	8
(継続企業の前提に関する注記).....	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記).....	8
(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動).....	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用).....	8
(追加情報).....	8
(セグメント情報).....	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の影響から持ち直しの動きがみられるものの、依然として極めて厳しい状況にありました。海外においても、新型コロナウイルス感染症の収束の目処が立たず、世界経済への長期的な影響が懸念される中で、米中の経済対立が先鋭化するなど、先行き不透明な状況が続きました。

このような事業環境のもと、当社グループは積極的な営業活動を推進してまいりましたが、新型コロナウイルスの影響による需要の減退をカバーするには至らず、当第2四半期連結累計期間の売上高は、243億98百万円と前年同期に比べ26億44百万円、9.8%の減少となりました。損益につきましては、主に電池材料において棚卸資産評価損を計上したため、経常利益は17億23百万円と前年同期に比べ23億00百万円、57.2%の減少となりました。親会社株主に帰属する四半期純利益は8億21百万円と前年同期に比べ17億16百万円、67.6%の減少となりました。

セグメント別の概況は、次のとおりであります。

① 基礎化学品事業部門

か性ソーダは、販売数量の減少と販売価格の低下により、前年同期に比べ減収となりました。塩酸は、販売価格の低下により、前年同期に比べ減収となりました。

塩素系有機製品につきましては、トリクロールエチレンは、販売数量の減少により、前年同期に比べ減収となりました。

パークロールエチレンは、販売数量は増加したものの販売先の構成の変化により、前年同期に比べ減収となりました。

以上の結果、基礎化学品事業部門の売上高は、26億21百万円となり、前年同期に比べ6億86百万円、20.8%の減少となりました。営業損益につきましては、営業損失1億16百万円となりました（前年同期は営業利益18百万円）。

② 精密化学品事業部門

半導体・液晶用特殊ガス類につきましては、三フッ化窒素は、販売価格は低下したものの販売数量が増加したため、前年同期に比べ増収となりました。六フッ化タングステン、販売数量は増加したものの販売価格の低下により、前年同期に比べ減収となりました。ヘキサフルオロ-1,3-ブタジエンは、販売数量の増加により、前年同期に比べ増収となりました。

電池材料の六フッ化リン酸リチウムは、販売数量の減少と販売価格の低下により、前年同期に比べ減収となりました。

以上の結果、精密化学品事業部門の売上高は、191億31百万円となり、前年同期に比べ8億58百万円、4.3%の減少となりました。営業損益につきましては、主に電池材料において棚卸資産評価損を計上したため、営業利益17億85百万円となり、前年同期に比べ15億87百万円、47.1%の減少となりました。

③ 鉄系事業部門

複写機・プリンターの現像剤用であるキャリアーは、テレワークの浸透による印刷減少等により販売数量が減少したため、前年同期に比べ減収となりました。鉄酸化物は、着色剤の販売減少により、前年同期に比べ減収となりました。

以上の結果、鉄系事業部門の売上高は、7億90百万円となり、前年同期に比べ4億39百万円、35.7%の減少となりました。営業損益につきましては、営業利益57百万円となり、前年同期に比べ1億43百万円、71.3%の減少となりました。

④ 商事事業部門

商事事業につきましては、化学工業薬品の販売減少により、前年同期に比べ減収となりました。

以上の結果、商事事業部門の売上高は、11億46百万円となり、前年同期に比べ3百万円、0.3%の減少となりました。営業損益につきましては、営業利益73百万円となり、前年同期に比べ11百万円、18.9%の増加となりました。

⑤ 設備事業部門

化学設備プラントおよび一般産業用プラント建設の売上高は、請負工事の減少により前年同期に比べ減収となりました。

以上の結果、設備事業部門の売上高は、7億07百万円となり、前年同期に比べ6億56百万円、48.1%の減少となりました。営業損益につきましては、営業利益1億61百万円となり、前

年同期に比べ2億33百万円、59.2%の減少となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第2四半期連結会計期間末の資産は、投資有価証券が増加した一方、受取手形及び売掛金やたな卸資産が減少したことなどから、前連結会計年度末に比べ27億83百万円減少し、812億77百万円となりました。

負債は、借入金や未払手形及び買掛金、流動負債のその他が減少したことなどから37億78百万円減少し、330億68百万円となりました。

純資産は、為替換算調整勘定が減少した一方、その他有価証券評価差額金や利益剰余金が増加したことなどから9億94百万円増加し、482億09百万円となりました。自己資本比率は、前連結会計年度末の54.8%から57.7%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2021年3月期の業績予想につきましては、新型コロナウイルス感染症の感染拡大が、業績に与える影響を合理的に算定することが困難であったことから未定としておりましたが、現時点において、入手可能な情報に基づき算定し、公表することとしました。詳しくは、別途公表いたしました「業績予想および配当予想に関するお知らせ」をご参照ください。

なお、上記の予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後さまざまな要因によって予想数値と異なる場合があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	16,654	17,018
受取手形及び売掛金	14,468	12,495
電子記録債権	704	935
商品及び製品	4,054	3,835
仕掛品	4,667	3,976
原材料及び貯蔵品	3,136	2,384
その他	1,602	1,640
貸倒引当金	△71	△68
流動資産合計	45,218	42,216
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	8,158	8,541
機械装置及び運搬具（純額）	13,338	14,665
その他（純額）	8,447	7,001
有形固定資産合計	29,944	30,208
無形固定資産	576	654
投資その他の資産		
投資有価証券	5,337	6,049
繰延税金資産	1,843	1,457
その他	1,144	694
貸倒引当金	△3	△3
投資その他の資産合計	8,321	8,197
固定資産合計	38,842	39,061
資産合計	84,061	81,277

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	6,229	5,471
電子記録債務	487	789
短期借入金	4,210	4,319
1年内返済予定の長期借入金	3,587	4,476
未払法人税等	897	403
役員賞与引当金	97	8
その他	5,349	4,366
流動負債合計	20,859	19,833
固定負債		
長期借入金	13,621	10,943
役員退職慰労引当金	137	119
役員株式給付引当金	—	2
環境対策引当金	26	26
退職給付に係る負債	1,956	1,925
その他	245	217
固定負債合計	15,987	13,234
負債合計	36,846	33,068
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,877	2,877
資本剰余金	1,829	1,829
利益剰余金	40,783	41,202
自己株式	△12	△70
株主資本合計	45,478	45,839
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	868	1,638
為替換算調整勘定	△263	△498
退職給付に係る調整累計額	△50	△46
その他の包括利益累計額合計	555	1,093
非支配株主持分	1,180	1,276
純資産合計	47,214	48,209
負債純資産合計	84,061	81,277

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年9月30日)
売上高	27,043	24,398
売上原価	19,088	18,705
売上総利益	7,954	5,692
販売費及び一般管理費	3,923	3,844
営業利益	4,031	1,847
営業外収益		
受取利息	7	2
受取配当金	131	131
保険解約返戻金	—	54
デリバティブ評価益	11	—
試作品売却益	56	—
その他	46	71
営業外収益合計	254	258
営業外費用		
支払利息	91	98
為替差損	131	62
デリバティブ評価損	—	13
試作品売却損	—	183
その他	39	24
営業外費用合計	262	382
経常利益	4,023	1,723
特別利益		
特別損失		
固定資産除却損	88	78
減損損失	45	—
投資有価証券評価損	—	322
特別損失合計	133	400
税金等調整前四半期純利益	3,890	1,323
法人税等	1,197	419
四半期純利益	2,693	903
非支配株主に帰属する四半期純利益	155	82
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,537	821

四半期連結包括利益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年9月30日)
四半期純利益	2,693	903
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△115	804
為替換算調整勘定	△356	△253
退職給付に係る調整額	8	3
その他の包括利益合計	△463	553
四半期包括利益	2,229	1,457
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,105	1,360
非支配株主に係る四半期包括利益	124	97

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)

第1四半期連結会計期間において、非連結子会社でありました宣城科地克科技有限公司の重要性が増したため、連結の範囲に含めております。なお、宣城科地克科技有限公司は当社の特定子会社に該当しております。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。但し、見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用する方法によって計算しております。

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響に関する会計上の見積り)

前事業年度の有価証券報告書に記載した、新型コロナウイルス感染症の影響の収束時期等を含む仮定及び会計上の見積りについて、重要な変更はありません。

(セグメント情報)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント						調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	基礎化学品 事業	精密化学品 事業	鉄系事業	商事事業	設備事業	計		
売上高								
(1) 外部顧客への売上高	3,307	19,990	1,230	1,150	1,364	27,043	—	27,043
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	643	67	16	2,302	1,913	4,942	△4,942	—
計	3,951	20,058	1,246	3,452	3,277	31,986	△4,942	27,043
セグメント利益	18	3,372	200	62	394	4,048	△16	4,031

(注) 1. セグメント利益の調整額△16百万円は、セグメント間取引消去であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

報告セグメントに配分されていない全社資産のうち、本社移転の意思決定に伴い、本社事務所資産について減損損失を認識しております。当該減損損失の金額は当第2四半期連結累計期間において45百万円であります。

II 当第2四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント						調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	基礎化学品 事業	精密化学品 事業	鉄系事業	商事事業	設備事業	計		
売上高								
(1) 外部顧客への売上高	2,621	19,131	790	1,146	707	24,398	—	24,398
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	557	187	14	1,946	1,498	4,204	△4,204	—
計	3,179	19,318	804	3,093	2,206	28,602	△4,204	24,398
セグメント利益又は 損失(△)	△116	1,785	57	73	161	1,961	△113	1,847

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額△113百万円は、セグメント間取引消去であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。